

シンポジウムII

4. 顔面神経麻痺に対する高気圧酸素治療法

石崎恵二*¹⁾ 佐藤美恵*²⁾ 木谷泰治*¹⁾
藤田達士*¹⁾

(*¹⁾群馬大学医学部麻酔蘇生学教室 *²⁾老年病研
究所附属病院麻酔科)

末梢性顔面神経麻痺は様々な原因による顔面神経損傷の結果の症候群である。我々は顔面神経麻痺にたいし高圧酸素療法を用い回復の日数, 改善度を検討した。またラットで実験的顔面神経麻痺モデルを作製し高圧酸素療法の効果を検討した。

1) 日本顔面神経学会の点数での比較。高圧酸素療法の診療日数, 改善度に及ぼす影響を検討した。診療日数で高圧酸素を療法群でやや短い傾向がみられたが有意な差はみられなかった。2) 誘発筋電図 (ENoG 値) をもちいた検討。誘発筋電図を用いると以下の事が判明した。最低 ENoG 値が40%以上は短期間で治癒する。20~39%でもかなり短期間で治癒する。5~19%では治癒まで平均1~2カ月を要した。2~5%では3~6カ月を有した。これらの検討の結果, 同程度の ENoG 値で高圧酸素療法の効果を判定する必要があることが解った。現在も ENoG 値の比較検討は続行中である。3) ラット顔面神経麻痺モデルでの検討。ラットで定圧のクランプによる実験的顔面神経損傷モデルを作製し, 高圧酸素療法の効果を検討した。300gのラットをもちいクリップで20秒間圧迫を加えた。対照群はクリップ1週間後, 2週間後に ENoG 値を測定した。2週間後には顔面神経を取り出し顕微鏡で神経数を測定した。高圧酸素群では1週間に5回 2ATA 1時間(加圧, 降圧含めて1時間30分) 合計10回の高圧酸素療法を行い, 同様に ENoG 値を測定した。

高圧酸素群では対照群に比較して有意に回復していた。これらの結果は, 顔面神経麻痺に対し高圧酸素療法が有効であることを示しているものと考えられた。

	前	1週間後	2週間後
対照群	9.4mV	36.4%	37.7%
HBO 群	7.8mV	76.1%	91.2%